

雨韻「ういん」

雨という現象をことばを介して空間的に切り出すことで、当たり前前の環境・風景を細分化し、周囲の誰かと、せかいとのささいなつながりを見出す。

一、「雨韻」が喚起する情緒の 和

日本では古来より、自然の音や現象をオノマトペで切り取り、言葉として昇華させる知覚手法が存在する。

しとしと
ぽつぽつ
じゃあじゃあ
じゃあじゃあ
ぞあぞあ
ぽい ぽい ぽい

「雨」という一つの現象は、言葉が与えられることによって、無限の情緒を育み豊かな広がりをもちうる。

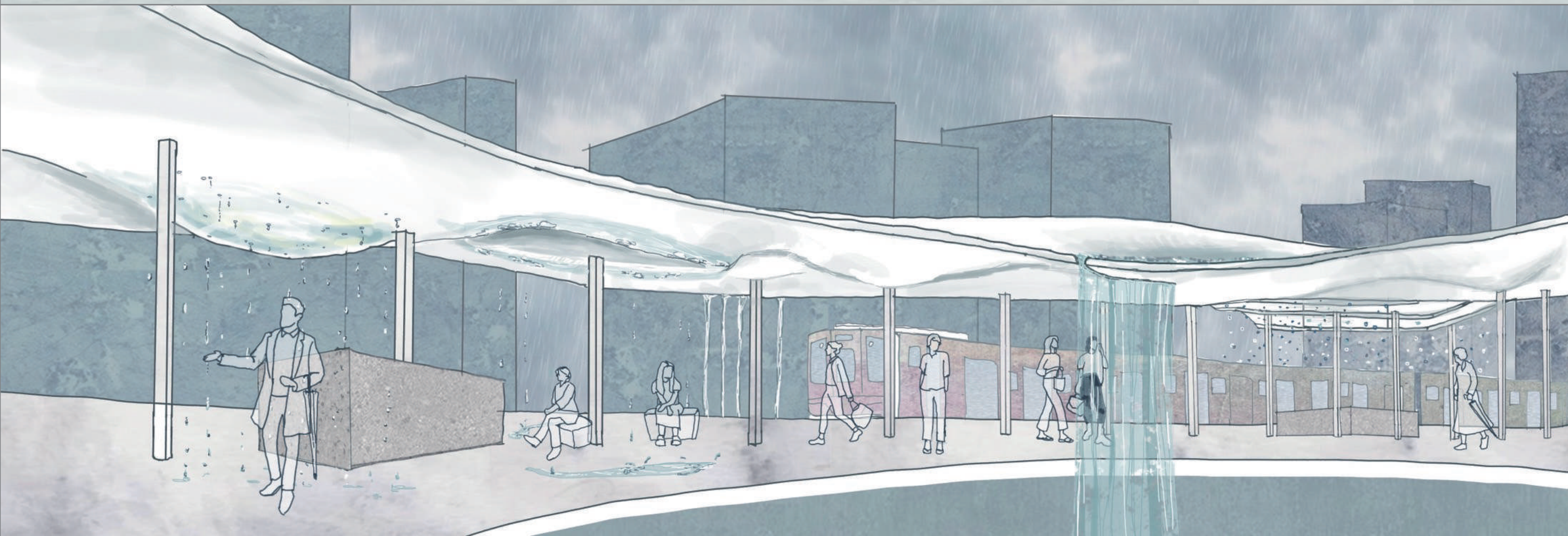
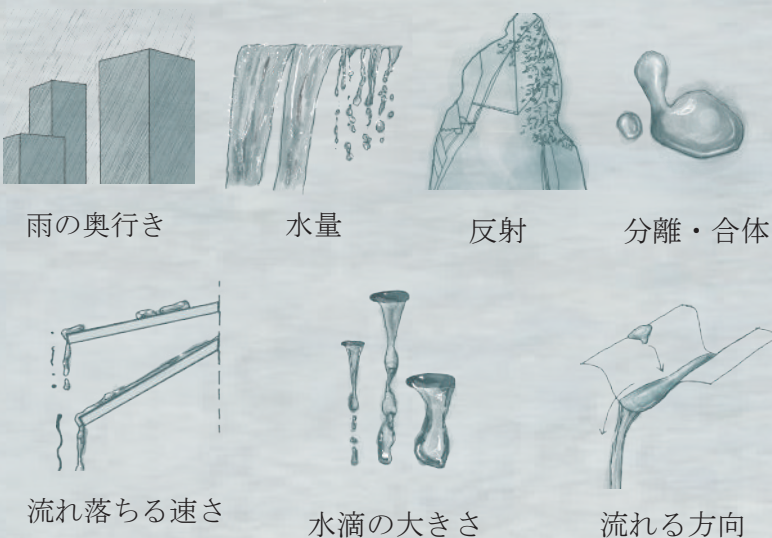
二、「雨韻」がもたらす共感の わ

雨という現象を、ささいな切り取りで言葉にするとき、私たちは個を超えた共感の「わ」を結ぶ。オノマトペが織りなす雨の韻は、それぞれの記憶や思い出を許容しながら、過去と現在、私と他者をやわらかにつなげ、世界を鮮やかにする。

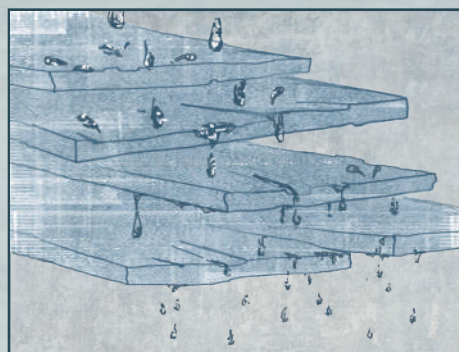


三、雨を立体的に知覚する

「雨韻」とは、雨のオノマトペを聴覚だけでなく、視覚・触覚を含めた立体的な現象として知覚するための空間操作である。



ばらばら



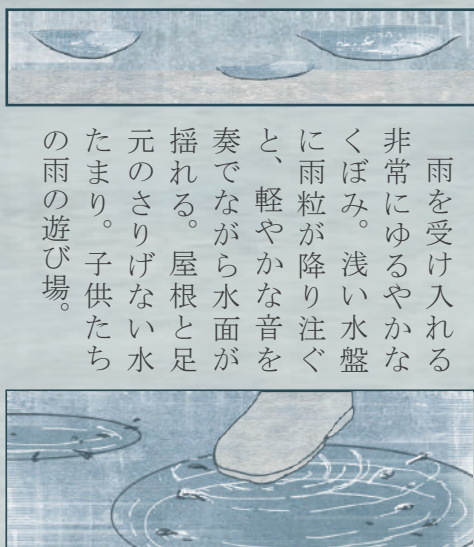
雨粒を細かく弾かせる屋根形状。積層した凹凸のある屋根に打ち付けられた雨粒は、徐々に細かく、小さくなる。なんだか濡れても嫌じゃない。

ぽつぽつ



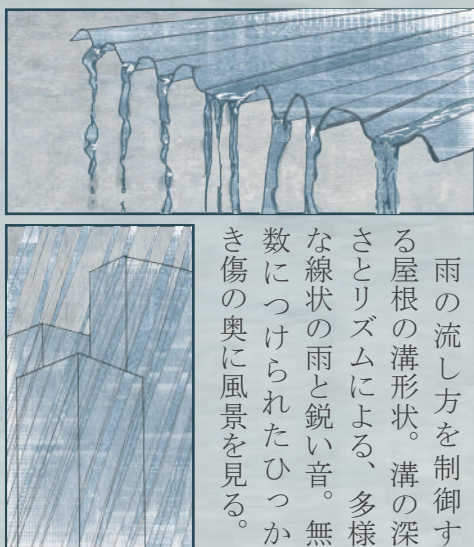
雨粒よりもほんの少し大きな開口。雨粒は、開口の縁をなぞりながら、ゆっくりとゆっくりと集まり、その存在を大きくしていく。「ぽつ」、「ぽつぽつ」とひとしずく、またひとしずくと落ちるさまは雨を鑑賞の対象に引き立てる。

ぴちやぴちや



雨を受け入れる非常にゆるやかなくぼみ。浅い水盤に雨粒が降り注ぐと、軽やかな音を奏でながら水面が揺れる。屋根と足元のさりげない水たまり。子供たちの雨の遊び場。

てーてー



雨の流し方を制御する屋根の溝形状。溝の深さとリズムによる、多様な線状の雨と鋭い音。無数につけられたひとつかき傷の奥に風景を見る。

じゃあじゃあ



面的な雨を演出する、急勾配の屋根とスリットのような開口。多量の雨が繊細なスリットを抜ける時、雨のカーテンが引かれる。視線の誘導と空間の